

安全な国産グリーン社会

コラム
SDGS
Safety
Domestic
Green
Society

第34回

「輸入する国」から「つくる国」へ
「バサルトファイバー」が拓く道

一般社団法人 洗楓座 代表理事 佐藤 建吉

▼はじめに

このコラムのタイトルの組み込まれた5つのキーワード——「安全・国産・グリーン・社会」のすべてを、「バサルトファイバー」は包み込んでいると、筆者は信じている。前回は「安全/S」を取り上げた。今回は「国産/D」である。「国産」という言葉から、多くの人は「日本で作られた製品」を思い浮かべる。しかし、これからの「国産」は、単に製品を国内で組み立てることだけではない。日本にある資源を見つければ、日本の技術で加工し、日本の産業として育て、その技術と仕事を次の世代につないでいくこと——そこまで含めて「国産」と考えるべきではないだろうか。

その一つの可能性を秘めているのが、バサルトファイバーである。

玄武岩に対する英語である。「ファイバー」は繊維を意味する。バサルトファイバーは、玄武岩をおよそ1500℃の高温で溶かし、細いノズルから押し出していく無機繊維である。ノズルから出る繊維は非常に細く、連続して数キロメートルに及ぶものもある。それを束ねたり、切断したり、樹脂などと組み合わせたりすることによって、棒状材のほか、板や型形状の繊維強化複合材など、さまざまな製品に加工することができる。

▼バサルトファイバーとは

玄武岩に対する英語である。「ファイバー」は繊維を意味する。バサルトファイバーは、玄武岩をおよそ1500℃の高温で溶かし、細いノズルから押し出していく無機繊維である。ノズルから出る繊維は非常に細く、連続して数キロメートルに及ぶものもある。それを束ねたり、切断したり、樹脂などと組み合わせたりすることによって、棒状材のほか、板や型形状の繊維強化複合材など、さまざまな製品に加工することができる。

▼潜在資源の国産材料化

日本は長い間、「資源の乏しい国」と言われてきた。石油や天然ガス、鉱物資源などを海外から輸入し、それを加工して付加価値を生み出すことが、日本の産業構造の大きな特徴であった。

「国産」ではないだろう。バサルトファイバーは、その象徴になり得る。軽量が強度が高く、耐食性にも優れるという特性を生かせば、建築・土木分野だけでなく、自動車や鉄道、そして航空など輸送分野にも応用できる。これらは、軽量化により燃料（燃費）や電池（電費）を削減できる。また防錆性の面では、海洋構造物への応用も期待できる。

「国産」ではないだろう。バサルトファイバーは、その象徴になり得る。軽量が強度が高く、耐食性にも優れるという特性を生かせば、建築・土木分野だけでなく、自動車や鉄道、そして航空など輸送分野にも応用できる。これらは、軽量化により燃料（燃費）や電池（電費）を削減できる。また防錆性の面では、海洋構造物への応用も期待できる。

「国産」ではないだろう。バサルトファイバーは、その象徴になり得る。軽量が強度が高く、耐食性にも優れるという特性を生かせば、建築・土木分野だけでなく、自動車や鉄道、そして航空など輸送分野にも応用できる。これらは、軽量化により燃料（燃費）や電池（電費）を削減できる。また防錆性の面では、海洋構造物への応用も期待できる。

「国産」ではないだろう。バサルトファイバーは、その象徴になり得る。軽量が強度が高く、耐食性にも優れるという特性を生かせば、建築・土木分野だけでなく、自動車や鉄道、そして航空など輸送分野にも応用できる。これらは、軽量化により燃料（燃費）や電池（電費）を削減できる。また防錆性の面では、海洋構造物への応用も期待できる。

「国産」ではないだろう。バサルトファイバーは、その象徴になり得る。軽量が強度が高く、耐食性にも優れるという特性を生かせば、建築・土木分野だけでなく、自動車や鉄道、そして航空など輸送分野にも応用できる。これらは、軽量化により燃料（燃費）や電池（電費）を削減できる。また防錆性の面では、海洋構造物への応用も期待できる。

連載

は、日本の再生可能

▼変革の連鎖へ

▼おわりに

「国産」とは、外国か